港湾振興便り

2013．1

第69号

＊：＊：＊：

＊：

１　ポートエッセイ　「国土強靱化は港湾から」

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）　篠田　昭～

＊：

新年明けましておめでとうございます。昨年は港湾の振興に大変なご尽力をいただきありがとうございました。今年も港の元気が地域の元気につながる取り組みを皆さんと共に頑張っていきますので、よろしくお願いします。

◇　　◇

年末に安倍政権が発足し、久しぶりに円安・株高の年明けを迎えた。安倍政権は「大胆な金融緩和」「力強い財政出動」「機動的な成長戦略」を３本の矢と位置づけている。円安・株高は安倍政権の基本戦略を好意的に捉える反応だろう。

問題はこの動きを継続させることだ。金融緩和と財政出動で生まれつつある期待感を、成長戦略の発動に結びつけられるかが勝負といえる。まずはそれぞれの地域が大型補正予算に的確に対応し、安倍新戦略をうまく滑り出させることだ。

安倍政権の新戦略のうち、財政出動を裏打ちしているのが自民党の「国土強靱化」であり、公明党の「防災・減災ニューディール」政策だ。大型補正と新年度予算の編成に当たって、「ばらまき」の批判が出ないよう、地域から日本の安全度、地域の安全度を高める具体的提案が重要となる。「公共事業悪玉論」への具体的反論も大切だ。

３・１１の大震災で明らかになったように、国土の強靱化と防災・減災で効果を挙げるには港湾の機能強化が欠かせない。安全度を上げると共に、港湾の機能強化をどう地域の活性化に結びつけるか、成長戦略につなげていくシナリオづくりにも力を注ぐ必要がある。

そういう意味で、今年は港湾と地域の振興を考えてきた我々の出番と思っている。情報を共有し、声を合わせて、安心安全で活気ある地域を取り戻す年としたい。

＊：

２　トピック

＊：

●「にっぽん丸」船内見学会の開催について

中国地方クルーズ振興協議会
（中国地方整備局　港湾空港部　海洋環境・技術課）

平成25年1月10日（木）、広島港宇品外貿ふ頭（通称「1万トンバース」）において、クルーズ客船にっぽん丸の船内見学会が開催されました。

この見学会は、中国地方のクルーズ振興を目的として「中国地方クルーズ振興協議会」が開催したもので、当日は平日にもかかわらず事前に応募があった４１名の参加者が豪華客船の7階から2階までの各施設を約1時間かけて見学しました。

今回は神戸港発着の「新春初旅にっぽん丸クルーズ（1月8日～11日）」として、宮崎県日南市にある油津港を9日の夕方出港した後、10日の朝広島港へ寄港したもので、見学会に先立ち、にっぽん丸の入港歓迎セレモニーが広島県主催（後援：瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会）により行われました。セレモニーでは広島港湾振興事務所長及び船長の挨拶の後、樽酒の鏡開きが行われ、船長へ花束と記念品が贈呈されました。

見学会では、プール、スポーツデッキ、シアタールーム、カジノラウンジ、茶室、ブテック、ネイルサロンや日本酒バーなど、ゆっくりと船旅が満喫できる様に工夫されたいろいろな施設に参加者らは興味津々で写真やビデオ撮影を行っていました。また船内では、広島市職員による観光デスクも設置され、乗船客を対象とした広島近郊の観光地案内等が行われました。

こうした数少ない船内見学会の開催等を通じて、少しでも多くの方々がクルーズに興味を持っていただき、日本国内外のクルーズ人口増加に繋がればと思います。

にっぽん丸（全長166.6m）

カジノラウンジ

● 南スーダンから３名のＪＩＣＡ研修員来る！　～海のない国から何故？～

（九州地方整備局　関門航路事務所）

１１月１５日（木）、南スーダンからアブドゥー運輸省河川交通局長、ズビエール運輸省ジュバ港管理組合ジュバ港長他１名の幹部職員がＪＩＣＡ研修員として関門航路を視察しました。それにしても南スーダンは海がないのに、何故、関門航路を視察したのか不思議ですね？？

それは、白ナイル川は流れが早く、また水深の確保が急務なことから日本の協力で港湾施設を整備する予定ですが、この流況の早いところが関門航路、特に最高約１０ノット（時速約２０km）の潮流が発生する早鞆瀬戸に似ていること、水深も現在１２ｍから１４ｍ化に向けた段階的な整備を進めていることなど、施工条件も南スーダンの港湾施設整備と非常に似ていることから、先進事例である関門航路を視察する運びになったようです。

始めに当事務所所属の浚渫兼油回収船「海翔丸」を視察し、浚渫方法など水深に係わる運営管理についての説明に熱心に聞き入っていました。その後、白ナイル川と現場条件が非常に似ている早鞆瀬戸の現場を船上から視察し、地形や巨大な浚渫船など視察され、関門航路整備のビックスケールに驚かれたようです。

視察後アブドゥー局長より、次回は技術者を派遣し更なる知見を習得したいとの言葉を受けましたが、この視察が白ナイル川の港湾施設整備に役立つとともに、南スーダンの更なる発展に繋がればと思っております。

南スーダン共和国：２０１１年７月９日、アフリカ大陸５４番目の国家として誕生。
面積は日本の約１．６倍、人口は約８３０万人。

海翔丸視察状況

早鞆瀬戸視察状況

● 北陸地域国際物流戦略チーム「広域バックアップ専門部会」の開催について

（北陸地方整備局　港湾空港部　港湾物流企画室）

平成24年12月12日（水）に、北陸地域国際物流戦略チーム「広域バックアップ専門部会」を金沢市において開催いたしました。

北陸地域物流戦略チーム（以下、「戦略チーム」という。）は、北陸地域における物流に係る課題・施策について幅広い意見・情報交換と問題意識を共有し、具体的な施策を推進するために平成18年８月に産学官で構成される組織として北陸地方整備局及び北陸信越運輸局が合同で設置したもので、平成19年11月に取り組むべき課題と方策について提言書を取りまとめました。

その後、提言書の方策が具体化される一方で、対岸諸国の情勢の変化、国の政策の新たな展開など北陸地域の国際物流環境を取り巻く社会情勢に大きな変化が生じたことや、東日本大震災直後に日本海側の港湾が太平洋側港湾の代替機能を果たしたことを踏まえ、平成24年３月に戦略チームを再開し、新たな国際物流の課題についての情報交換並びに検討を行うことに加え、特定の課題について検討を行うため専門部会を設置することとしました。

これを受け、今後、発生が確実視されている首都直下地震や南海トラフ巨大地震等の最悪のシナリオを想定した際に、北陸地域としてのバックアップ体制構築の方策を検討することを目的に、防災・物流・経済関係の有識者、物流関係者、関係行政機関で構成される「広域バックアップ専門部会」（座長：東北学院大学　柳井雅也教授）を設置したものです。

会議の冒頭、主催者を代表して東山茂北陸地方整備局次長が「今後の発生が確実視される首都圏直下型地震や南海トラフ巨大地震等が起こった際に、全国的見地から見て太平洋側港湾のみに依存した物流形態のままでは、サプライチェーンの途絶により事業継続が困難となる企業が多発する恐れがあり、我が国における生産活動・経済活動全体が甚大な影響を受けることが危惧される。本専門部会では、このような事態を避けるため、北陸地域の港湾の利用により、地震発生時の最悪のシナリオを考慮した広域バックアップ体制確保の方策を関係機関と共に検討してまいりたい」と挨拶を行いました。

東山次長挨拶

会議では、事務局から専門部会の設置趣旨等を報告した後、議論に先立ち、内閣府などで検討されている事業継続に関する話題提供として、細坪委員から企業における代替戦略の必要性などについて、高橋委員から金融による事業継続支援についての報告が行われました。これに引き続き、事務局から首都圏直下型地震等が発生した場合に被災した港湾で取扱不能となり代替輸送を必要とする外貿コンテナ

広域バックアップ専門部会の様子

貨物量の需要推計結果と、東日本大震災に関するアンケート結果から、今後、太平洋側のバックアップ機能を確保する上での課題を提示しました。これらを踏まえて、事務局から「社会インフラの確保（港湾等）」、「事業継続の支援制度充実」、「災害時における情報共有」を今後の議論の方向性として提示し、各委員から「想定される大規模地震ごとに北陸各港湾の役割分担を決めておく必要があるのではないか。」　、「太平洋側のバックアップを北陸が担うということは太平洋側港湾のバリューアップにも繋がる。」、「企業の事業継続をサポートするためには、日頃から儲かるという仕組みを構築する必要があり、国、自治体、民間の関係機関が共同して取り組むことが重要である。」　などの発言があり、活発な議論が行われました。

今後は、今回の専門部会での意見等を踏まえつつ、北陸地域としてのバックアップ体制の構築とその方策について議論を深めていきたいと考えております。

当日の専門部会の資料については北陸地方整備局ホームページに掲載しております。

http://www.pa.hrr.mlit.go.jp/butsuryu/butsuryu-kanri/data/schedule/menu4_1.html

●　ＪＩＣＡ研修生が「新潟西海岸」と「水理実験場」、「白山」を見学しました。

（北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所）

平成２４年１２月１０日（月）、（独）国際協力機構（ＪＩＣＡ）研修生１９名が、ＪＩＣＡ横浜国際センターでの「セネガル国別および仏語圏アフリカ海岸侵食対策コース」研修の一環で新潟港湾・空港整備事務所に来所しました。

研修生は、新潟西海岸の海岸侵食対策事業について概要説明の後、新潟港湾空港技術調査事務所の水理実験場で平面水槽と断面水槽での護岸越波実験や、当事務所所属大型浚渫兼油回収船「白山」に乗船してブリッジを見学しました。バスの車窓からと海岸に降り立って対策現場を実際に見ながら研修し、新潟みなとトンネルを通り朱鷺メッセの展望室で西港、東港、新潟空港と合わせて、明治の開港５港のひとつである新潟港の歴史についても学びました。

水理実験場

白　山

新潟西海岸

＊：

３　お知らせ

＊：

●「日本海・糸魚川荒波あんこう祭り」が開催されます！

新潟県糸魚川市において、毎年恒例の「日本海・糸魚川荒波あんこう祭り」が開催されます。

冬の味覚「あんこう」

糸魚川の冬の味覚といえば、「あんこう（鮟鱇）」です。

あんこうといえば茨城県も有名ですが、糸魚川沖は冬の荒波に揉まれながらたくましく育ったあんこうの絶好の漁場となっており、市内の漁港に水揚げされたばかりの新鮮なあんこうが手に入りやすく、糸魚川市内のお店でも美味しく味わうことができるのです。

上記ポスターに記載されている糸魚川荒波あんこう祭りの日程のほか、1/19～2/28 の間は、糸魚川荒波あんこうフェアが開催され、市内各地の温泉宿やお食事処で素材を活かした品からあんこうのフルコースまで味わうことができます。

この冬、糸魚川荒波あんこう祭り、糸魚川荒波あんこうフェアで旬のあんこうを味わってみてはいかがでしょうか。

吊るし切りの様子

＊：＊：＊：　**本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先**　：＊：＊：＊＊：

日本港湾振興団体連合会事務局
〒105-0002　東京都港区愛宕1-3-4
TEL：03-5776-0630　FAX：03-5776-0631　e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：